

教職員

いじめ防止、早期発見のためのチェックリスト

2026年度

(年 組)

早期発見に向けて

- (1) 早期発見には、命と人権を大切にした学級・学校づくりが何よりも大切である。
- (2) 日ごろから教職員と児童の好ましい人間関係の構築に努める。
- (3) いじめは教職員や大人には気づきにくいところで行われていることが多く、発見されにくいものであると認識し、子どもの小さな変化を敏感に察知し、見逃さない。
- (4) 多方面からの情報を得ようとする。

1 いじめを許さない学級づくりの視点（あてはまる場合☑をつける）

クラスを見直すチェックポイント

【年度当初】

- いじめは人権侵害であり、絶対に許さないという話をしましたか。

【日々の観察】

- 毎日、子ども一人ひとりの表情に気を配っていますか。
- 子どもの服装や素振りの変化に気を配っていますか。
- 机の並びや掲示物、教室内のゴミなどに気を配っていますか。

【教育活動全般】

- 日々の学校生活の問題を取り上げ、人としての善悪について考えさせていますか。
- どの子に対しても「認める」ことや「ほめる」ことを心がけていますか。
- 子どもの様子が少しでもいじめを疑われる時には、忙しくても優先して行動していますか。
- 学級づくりで悩んだ時、一人で抱え込んでいませんか。
- いじめのことで保護者と連絡を取る時、電話だけですませていませんか。
- 地域・学校・学年・学級での体験などを通して、自分の存在意義を考えさせていますか。
- 多方面から情報を得る機会を積極的につくっていますか。

2 いじめが起こりにくい・起こっていない集団の状況（あてはまる場合☑をつける）

- 朝いつも誰かの机が曲がっているということがない。
- 掲示物が破れていたり落書きがあつたりしない。
- 班にすると、机と机の間に隙間がなく、きちんとくっついている。
- 授業中、教職員に見えないように消しゴム投げなどをしていない。
- 教職員がいなくても、掃除がきちんとできる。
- 自由にグループ分けをさせても、特定の子どもが残らない。
- 些細なことで冷やかしたりするグループはない。
- 学級やグループの中で絶えず周りの顔をうかがう子どもがいない。
- 自分たちのグループだけでまとまり、他を寄せ付けない雰囲気はない。
- 特定の子どもに気を遣っている雰囲気はない。

月 日
切

記入後は担当まで